報告 7　併置校

はじめに

　併置校を対象に、単独から併置になった際の変化や、課題について調査を行った。

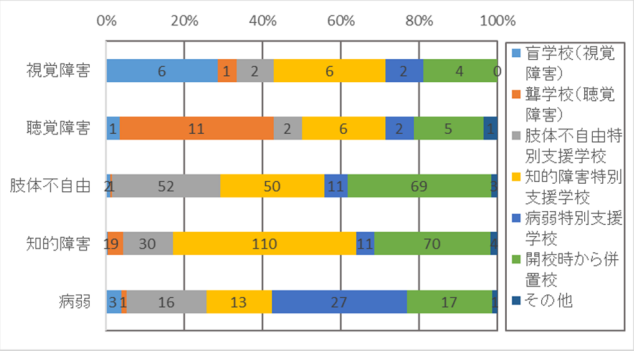
【110】単独障害種別時の障害種別について、お答えください。≪単一選択≫

	盲学校（視覚障害）	聾学校（聴覚障害）	肢体不自由特別支援学校	知的障害特別支援学校	病弱特別支援学校	開校時から併置校	その他
合計	6	11	55	112	28	78	6
%	(2)	(3.7)	(18.6)	(37.8)	(9.5)	(26.4)	(2)

※上記表は各校が選択した項目数を集計しております。

視覚障害	6	1	2	6	2	4	0
%	(28.6)	(4.8)	(9.5)	(28.6)	(9.5)	(19)	(0)
聴覚障害	1	11	2	6	2	5	1
%	(3.6)	(39.3)	(7.1)	(21.4)	(7.1)	(17.9)	(3.6)
肢体不自由	2	1	52	50	11	69	3
%	(1.1)	(0.5)	(27.7)	(26.6)	(5.9)	(36.7)	(1.6)
知的障害	1	9	30	110	11	70	4
%	(0.4)	(3.8)	(12.8)	(46.8)	(4.7)	(29.8)	(1.7)
病弱	3	1	16	13	27	17	1
%	(3.8)	(1.3)	(20.5)	(16.7)	(34.6)	(21.8)	(1.3)
合計	13	23	102	185	53	165	9
%	(2.4)	(4.2)	(18.5)	(33.6)	(9.6)	(30.0)	(1.6)

※上記表は各校複数の障害種別を選択しており、障害種別毎に選択された項目を集計しております。



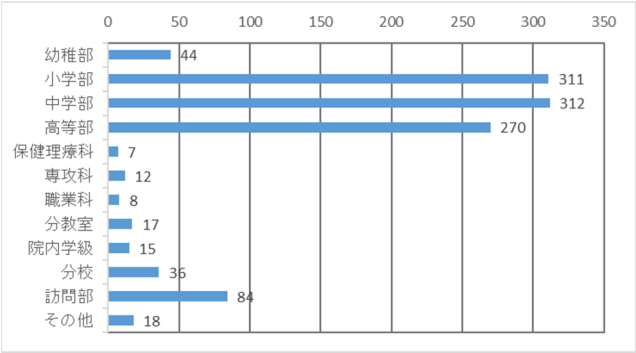
【111】併置になる前に設置されていた学部・学科等について、お答えください。≪複数選択可≫

	幼稚部	小学部	中学部	高等部	保健理療科	専攻科	職業科	分教室	院内学級	分校	訪問部	その他
合計	20	156	156	135	2	5	3	10	7	14	40	8
%	(11.4)	(89.1)	(89.1)	(77.1)	(1.1)	(2.9)	(1.7)	(5.7)	(4)	(8)	(22.9)	(4.6)

※上記表は各校が選択した項目数を集計しております。

視覚障害	5	13	13	9	2	2	1	1	1	3	4	1
%	(38.5)	(100)	(100)	(69.2)	(15.4)	(15.4)	(7.7)	(7.7)	(7.7)	(23.1)	(30.8)	(7.7)
聴覚障害	12	20	19	14	1	4	2	2	1	4	4	2
%	(60)	(100)	(95)	(70)	(5)	(20)	(10)	(10)	(5)	(20)	(20)	(10)
肢体不自由	8	109	109	99	1	1	1	6	5	12	31	7
%	(6.7)	(90.8)	(90.8)	(82.5)	(0.8)	(0.8)	(0.8)	(5)	(4.2)	(10)	(25.8)	(5.8)
知的障害	12	117	118	107	1	3	3	5	3	10	30	5
%	(8.8)	(86)	(86.8)	(78.7)	(0.7)	(2.2)	(2.2)	(3.7)	(2.2)	(7.4)	(22.1)	(3.7)
病弱	7	52	53	41	2	2	1	3	5	7	15	3
%	(13)	(96.3)	(98.1)	(75.9)	(3.7)	(3.7)	(1.9)	(5.6)	(9.3)	(13)	(27.8)	(5.6)
合計	44	311	312	270	7	12	8	17	15	36	84	18
%	(3.9)	(27.4)	(27.5)	(23.8)	(0.6)	(1.1)	(0.7)	(1.5)	(1.3)	(3.2)	(7.4)	(1.6)

※上記表は各校複数の障害種別を選択しており、障害種別毎に選択された項目を集計しております。



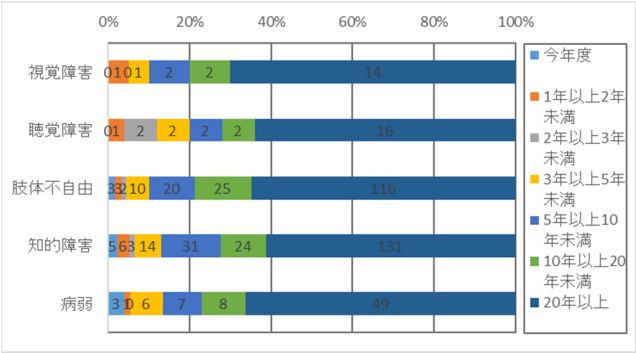
【112】開校年月日をお答えください。

	今年度	1年以上2年未満	2年以上3年未満	3年以上5年未満	5年以上10年未満	10年以上20年未満	20年以上
合計	6	6	3	16	35	29	172
%	(2.2)	(2.2)	(1.1)	(6)	(13.1)	(10.9)	(64.4)

※上記表は各校が選択した項目数を集計しております。

視覚障害	0	1	0	1	2	2	14
%	(0)	(5)	(0)	(5)	(10)	(10)	(70)
聴覚障害	0	1	2	2	2	2	16
%	(0)	(4)	(8)	(8)	(8)	(8)	(64)
肢体不自由	3	3	2	10	20	25	116
%	(1.7)	(1.7)	(1.1)	(5.6)	(11.2)	(14)	(64.8)
知的障害	5	6	3	14	31	24	131
%	(2.3)	(2.8)	(1.4)	(6.5)	(14.5)	(11.2)	(61.2)
病弱	3	1	0	6	7	8	49
%	(4.1)	(1.4)	(0)	(8.1)	(9.5)	(10.8)	(66.2)
合計	11	12	7	33	62	61	326
%	(2.1)	(2.3)	(1.4)	(6.4)	(12.1)	(11.9)	(63.7)

※上記表は各校複数の障害種別を選択しており、障害種別毎に選択された項目を集計しております。



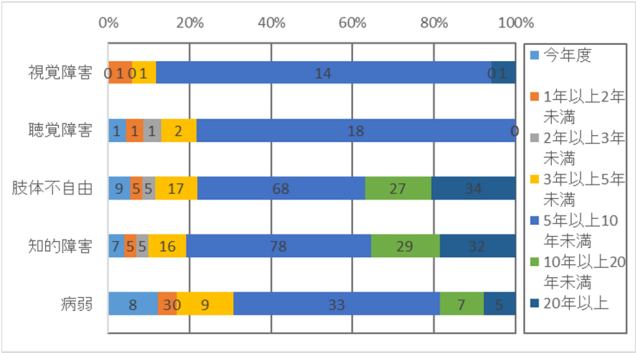
【113】併置となった年月日をお答えください。

	今年度	1年以上2年未満	2年以上3年未満	3年以上5年未満	5年以上10年未満	10年以上20年未満	20年以上
合計	12	6	5	21	93	32	38
%	(5.8)	(2.9)	(2.4)	(10.1)	(44.9)	(15.5)	(18.4)

※上記表は各校が選択した項目数を集計しております。

視覚障害	0	1	0	1	14	0	1
%	(0)	(5.9)	(0)	(5.9)	(82.4)	(0)	(5.9)
聴覚障害	1	1	1	2	18	0	0
%	(4.3)	(4.3)	(4.3)	(8.7)	(78.3)	(0)	(0)
肢体不自由	9	5	5	17	68	27	34
%	(5.5)	(3)	(3)	(10.3)	(41.2)	(16.4)	(20.6)
知的障害	7	5	5	16	78	29	32
%	(4.1)	(2.9)	(2.9)	(9.3)	(45.3)	(16.9)	(18.6)
病弱	8	3	0	9	33	7	5
%	(12.3)	(4.6)	(0)	(13.8)	(50.8)	(10.8)	(7.7)
合計	25	15	11	45	211	63	72
%	(5.7)	(3.4)	(2.5)	(10.2)	(47.7)	(14.3)	(16.3)

※上記表は各校複数の障害種別を選択しており、障害種別毎に選択された項目を集計しております。



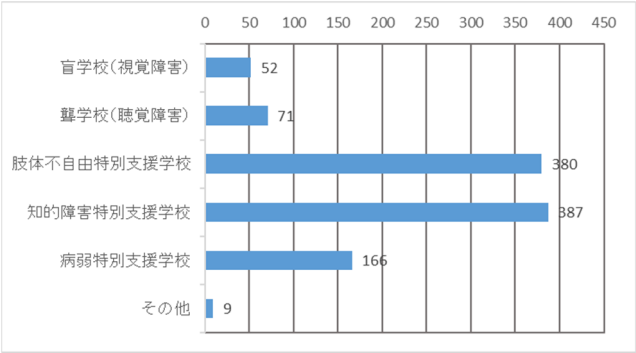
【114】併置後の障害種別について、お答えください。≪複数選択可≫

	盲学校（視覚障害）	聾学校（聴覚障害）	肢体不自由特別支援学校	知的障害特別支援学校	病弱特別支援学校	その他
合計	14	21	171	177	65	3
%	(6.2)	(9.3)	(76)	(78.7)	(28.9)	(1.3)

※上記表は各校が選択した項目数を集計しております。

視覚障害	13	9	12	13	12	1
%	(76.5)	(52.9)	(70.6)	(76.5)	(70.6)	(5.9)
聴覚障害	9	19	13	22	11	2
%	(37.5)	(79.2)	(54.2)	(91.7)	(45.8)	(8.3)
肢体不自由	10	12	165	141	48	2
%	(5.6)	(6.8)	(93.2)	(79.7)	(27.1)	(1.1)
知的障害	10	20	145	174	34	3
%	(5.4)	(10.8)	(78.4)	(94.1)	(18.4)	(1.6)
病弱	10	11	45	37	61	1
%	(14.3)	(15.7)	(64.3)	(52.9)	(87.1)	(1.4)
合計	52	71	380	387	166	9
%	(4.9)	(6.7)	(35.7)	(36.3)	(15.6)	(0.8)

※上記表は各校複数の障害種別を選択しており、障害種別毎に選択された項目を集計しております。



■その他内容

知肢同時開校／名称は聾学校、高等部のみ知的障害学級設置／総合支援学校／知的障がいのある肢体不自由／高等学校との併設

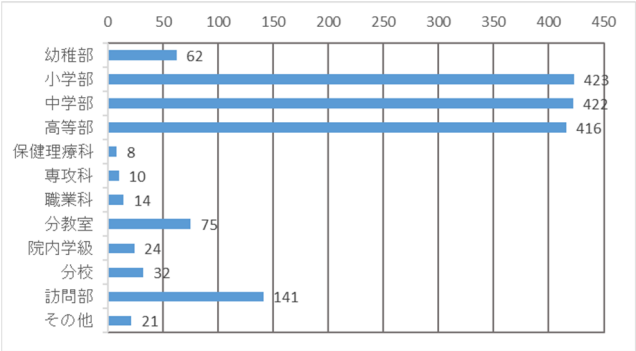
【115】併置後の学部・学科等について、お答えください。≪複数選択可≫

	幼稚部	小学部	中学部	高等部	保健理療科	専攻科	職業科	分教室	院内学級	分校	訪問部	その他
合計	26	199	199	197	3	4	6	35	11	13	61	11
%	(11.4)	(86.9)	(86.9)	(86)	(1.3)	(1.7)	(2.6)	(15.3)	(4.8)	(5.7)	(26.6)	(4.8)

※上記表は各校が選択した項目数を集計しております。

視覚障害	7	15	15	12	3	3	1	4	2	2	7	1
%	(43.8)	(93.8)	(93.8)	(75)	(18.8)	(18.8)	(6.3)	(25)	(12.5)	(12.5)	(43.8)	(6.3)
聴覚障害	14	21	21	19	1	2	2	4	2	2	7	2
%	(60.9)	(91.3)	(91.3)	(82.6)	(4.3)	(8.7)	(8.7)	(17.4)	(8.7)	(8.7)	(30.4)	(8.7)
肢体不自由	12	162	161	161	1	1	3	26	7	11	54	5
%	(6.8)	(91.5)	(91)	(91)	(0.6)	(0.6)	(1.7)	(14.7)	(4)	(6.2)	(30.5)	(2.8)
知的障害	20	162	162	168	1	2	6	26	5	10	48	10
%	(10.6)	(85.7)	(85.7)	(88.9)	(0.5)	(1.1)	(3.2)	(13.8)	(2.6)	(5.3)	(25.4)	(5.3)
病弱	9	63	63	56	2	2	2	15	8	7	25	3
%	(13)	(91.3)	(91.3)	(81.2)	(2.9)	(2.9)	(2.9)	(21.7)	(11.6)	(10.1)	(36.2)	(4.3)
合計	62	423	422	416	8	10	14	75	24	32	141	21
%	(3.8)	(25.7)	(25.6)	(25.2)	(0.5)	(0.6)	(0.8)	(4.6)	(1.5)	(1.9)	(8.6)	(1.3)

※上記表は各校複数の障害種別を選択しており、障害種別毎に選択された項目を集計しております。



■その他内容

【視覚障害】
寄宿舎

【聴覚障害】
聴覚障害…幼稚部・小学部・中学部知的障害…小学部・中学部・高等部／寄宿舎

【肢体不自由】
高等部普通科職業コース／幼稚部は肢体不自由のみ／寄宿舎／併置後に分教室設置／訪問部は設置していないが、訪問学級を設置している。／H29.3.31 分校閉校

【知的障害】
病院訪問分教室／聴覚障害…幼稚部・小学部・中学部知的障害…小学部・中学部・高等部／高等部普通科職業コース／高等部普通科職業コース／高等部普通科職業コース／幼稚部は肢体不自由のみ／寄宿舎／病弱部門については小・中学部のみ／併置後に分教室設置／商業高校との併設

【病弱】寄宿舎／病弱部門については小・中学部のみ／訪問部は設置していないが、訪問学級を設置している。／H29.3.31 分校閉校

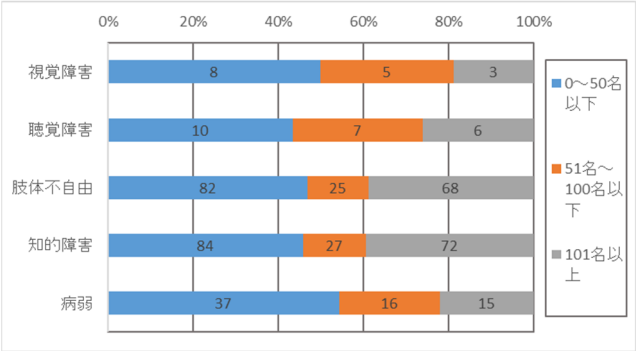
【116】併置後、児童・生徒数の増加数について、お答えください。≪単一選択≫

	0～50名以下	51名～100名以下	101名以上
合計	110	33	78
%	(49.8)	(14.9)	(35.3)

※上記表は各校が選択した項目数を集計しております。

視覚障害	8	5	3
%	(50)	(31.3)	(18.8)
聴覚障害	10	7	6
%	(43.5)	(30.4)	(26.1)
肢体不自由	82	25	68
%	(46.9)	(14.3)	(38.9)
知的障害	84	27	72
%	(45.9)	(14.8)	(39.3)
病弱	37	16	15
%	(54.4)	(23.5)	(22.1)
合計	221	80	164
%	(47.5)	(17.2)	(35.3)

※上記表は各校複数の障害種別を選択しており、障害種別毎に選択された項目を集計しております。



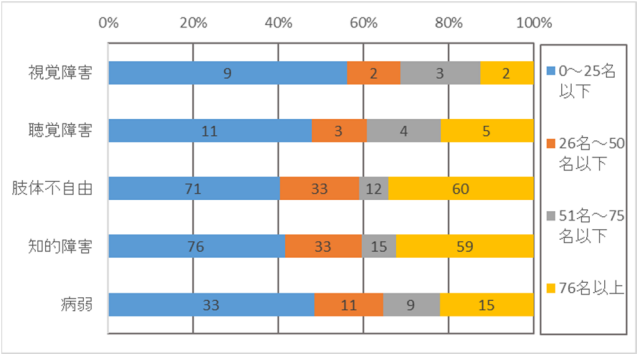
【117】併置後、教職員数の増加数について、お答えください。≪単一選択≫

	0～25名以下	26名～50名以下	51名～75名以下	76名以上
合計	98	39	20	65
%	(44.1)	(17.6)	(9)	(29.3)

※上記表は各校が選択した項目数を集計しております。

視覚障害	9	2	3	2
%	(56.3)	(12.5)	(18.8)	(12.5)
聴覚障害	11	3	4	5
%	(47.8)	(13)	(17.4)	(21.7)
肢体不自由	71	33	12	60
%	(40.3)	(18.8)	(6.8)	(34.1)
知的障害	76	33	15	59
%	(41.5)	(18)	(8.2)	(32.2)
病弱	33	11	9	15
%	(48.5)	(16.2)	(13.2)	(22.1)
合計	200	82	43	141
%	(42.9)	(17.6)	(9.2)	(30.3)

※上記表は各校複数の障害種別を選択しており、障害種別毎に選択された項目を集計しております。

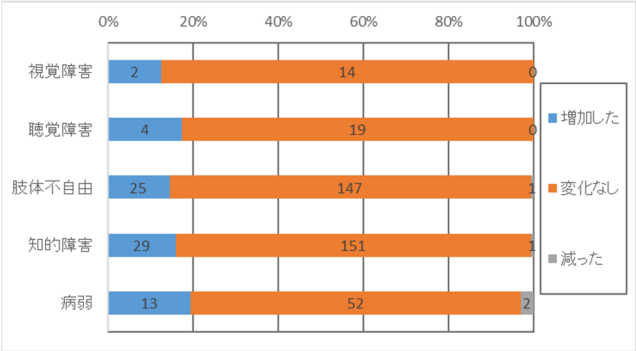


【118】敷地面積の増加の有無について、お答えください。≪単一選択≫

	増加した	変化なし	減った
合計	35	182	2
%	(16)	(83.1)	(0.9)

※上記表は各校が選択した項目数を集計しております。

視覚障害	2	14	0
%	(12.5)	(87.5)	(0)
聴覚障害	4	19	0
%	(17.4)	(82.6)	(0)
肢体不自由	25	147	1
%	(14.5)	(85)	(0.6)
知的障害	29	151	1
%	(16)	(83.4)	(0.6)
病弱	13	52	2
%	(19.4)	(77.6)	(3)
合計	73	383	4
%	(15.9)	(83.3)	(0.9)



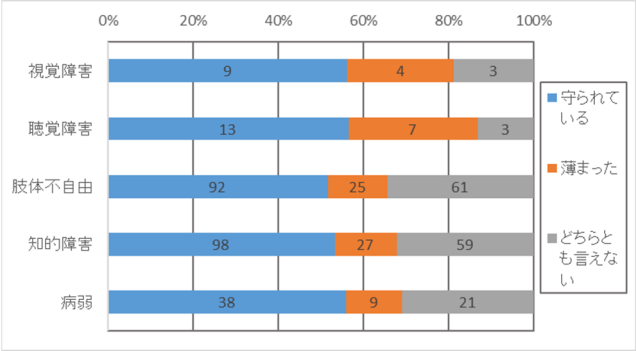
※上記表は各校複数の障害種別を選択しており、障害種別毎に選択された項目を集計しております。

【119】併置後の障害種別の専門性の維持について、お答えください。≪単一選択≫

	守られている	薄まった	どちらとも言えない
合計	123	30	70
%	(55.2)	(13.5)	(31.4)

※上記表は各校が選択した項目数を集計しております。

視覚障害	9	4	3
%	(56.3)	(25)	(18.8)
聴覚障害	13	7	3
%	(56.5)	(30.4)	(13)
肢体不自由	92	25	61
%	(51.7)	(14)	(34.3)
知的障害	98	27	59
%	(53.3)	(14.7)	(32.1)
病弱	38	9	21
%	(55.9)	(13.2)	(30.9)
合計	250	72	147
%	(53.3)	(15.4)	(31.3)



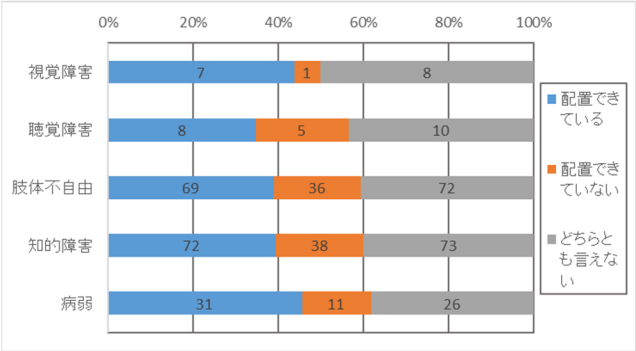
※上記表は各校複数の障害種別を選択しており、障害種別毎に選択された項目を集計しております。

【120】障害種別に対応した専門性のある教員の配置について、お答えください。≪単一選択≫

	配置できている	配置できていない	どちらとも言えない
合計	94	42	86
%	(42.3)	(18.9)	(38.7)

※上記表は各校が選択した項目数を集計しております。

視覚障害	7	1	8
%	(43.8)	(6.3)	(50)
聴覚障害	8	5	10
%	(34.8)	(21.7)	(43.5)
肢体不自由	69	36	72
%	(39)	(20.3)	(40.7)
知的障害	72	38	73
%	(39.3)	(20.8)	(39.9)
病弱	31	11	26
%	(45.6)	(16.2)	(38.2)
合計	187	91	189
%	(40.0)	(19.5)	(40.5)



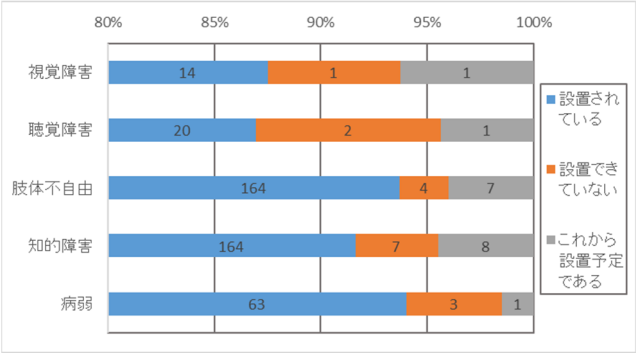
※上記表は各校複数の障害種別を選択しており、障害種別毎に選択された項目を集計しております。

【121】併置校化後、多様な教育課程の設置について、お答えください。≪単一選択≫

	設置されている	設置できていない	これから設置予定である
合計	201	8	8
%	(92.6)	(3.7)	(3.7)

※上記表は各校が選択した項目数を集計しております。

視覚障害	14	1	1
%	(87.5)	(6.3)	(6.3)
聴覚障害	20	2	1
%	(87)	(8.7)	(4.3)
肢体不自由	164	4	7
%	(93.7)	(2.3)	(4)
知的障害	164	7	8
%	(91.6)	(3.9)	(4.5)
病弱	63	3	1
%	(94)	(4.5)	(1.5)
合計	425	17	18
%	(92.4)	(3.7)	(3.9)



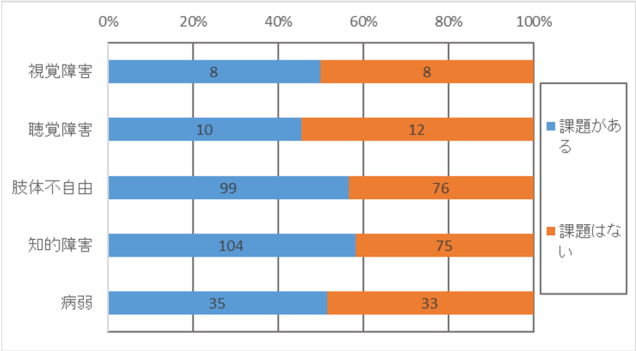
※上記表は各校複数の障害種別を選択しており、障害種別毎に選択された項目を集計しております。

【122】併置校化に伴う教育課程上の課題について、お答えください。≪単一選択≫

	課題がある	課題はない
合計	124	94
%	(56.9)	(43.1)

※上記表は各校が選択した項目数を集計しております。

視覚障害	8	8
%	(50)	(50)
聴覚障害	10	12
%	(45.5)	(54.5)
肢体不自由	99	76
%	(56.6)	(43.4)
知的障害	104	75
%	(58.1)	(41.9)
病弱	35	33
%	(51.5)	(48.5)
合計	256	204
%	(55.7)	(44.3)



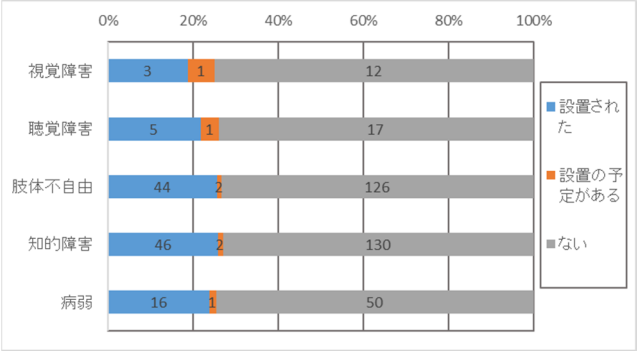
※上記表は各校複数の障害種別を選択しており、障害種別毎に選択された項目を集計しております。

【123】併置校化により先進的な施設設備が設置されたかについて、お答えください。≪単一選択≫

	設置された	設置の予定がある	ない
合計	54	2	161
%	(24.9)	(0.9)	(74.2)

※上記表は各校が選択した項目数を集計しております。

視覚障害	3	1	12
%	(18.8)	(6.3)	(75)
聴覚障害	5	1	17
%	(21.7)	(4.3)	(73.9)
肢体不自由	44	2	126
%	(25.6)	(1.2)	(73.3)
知的障害	46	2	130
%	(25.8)	(1.1)	(73)
病弱	16	1	50
%	(23.9)	(1.5)	(74.6)
合計	114	7	335
%	(25.0)	(1.5)	(73.5)



※上記表は各校複数の障害種別を選択しており、障害種別毎に選択された項目を集計しております。

■具体的な設置内容

【視覚障害】

視覚障害教育支援センター／実習・教室棟の新設

【聴覚障害】

実習・教室棟の新設／廊下の情報表示モニターの設置／特別教室

【肢体不自由】

エレベーター，トイレ，スロープ／エレベーター、避難スロープ、障害者用トイレ／オストメイト対応トイレ、教育相談室／ジャグジー／スヌーズレン室　カームダウン室／スロープ　更衣室を増やした／

スロープ及びエレベーター／バリアフリー（スロープ、トイレ、出入り口、エレベーター）冷暖房（体育館も含む）／バリアフリー化された校舎／一部新設された部分と旧校舎のバリアフリー化がされ、肢体不自由の児童生徒に対応した施設になった。／運動動作学習室　言語学習室／温水プール、スヌーズレン／開閉式の温水プール、調理実習室の業務用オーブン／校舎内は全面バリアフリーで、段差がなく、体育館を含めて床暖房の完備。廊下の幅が広く、上下２段の手すりがある。車椅子の児童生徒に対応した手洗い場やトイレの設置。重複障害棟の教室は、教室間の間にトイレ、シャワーの設置。リフト付きスクールバス、段差のないバスピットの完備。水治訓練室の設置等。／施設のバリアフリー化／児童・生徒の状況により、適切な設備を随時整えている。／自立活動室、水治学習室／自立活動室、水治訓練室／室内プール／実習・教室棟の新設／車いす対応のゴムチップのグラウンド／床暖房、教室天井遊具用釣り具、大型電子掲示板等／水治訓練室、自立活動室／水浴室　スヌーズレン室　床暖房／全館バリアフリー化／組織整備／地域支援室、検査室、自立活動室、プレイルーム、多目的室など／敷地内に肢体不自由棟を増設。屋内プール棟の設置。／理科室がない／廊下･階段手すり／廊下の情報表示モニターの設置

【知的障害】
エレベーター，トイレ，スロープ／エレベーター、避難スロープ、障害者用トイレ／ジャグジー／スヌーズレン室　カームダウン室／スロープ　更衣室を増やした／スロープ及びエレベーター／バリアフリー（スロープ、トイレ、出入り口、エレベーター）冷暖房（体育館も含む）／バリアフリー化された校舎／運動動作学習室　言語学習室／温水プール、スヌーズレン／開閉式の温水プール、調理実習室の業務用オーブン／共用部分を使用するには、エレベーターが必要／校舎内は全面バリアフリーで、段差がなく、体育館を含めて床暖房の完備。廊下の幅が広く、上下２段の手すりがある。車椅子の児童生徒に対応した手洗い場やトイレの設置。重複障害棟の教室は、教室間の間にトイレ、シャワーの設置。リフト付きスクールバス、段差のないバスピットの完備。水治訓練室の設置等。／施設のバリアフリー化／児童・生徒の状況により、適切な設備を随時整えている。／自立活動室、水治学習室／自立活動室、水治訓練室／室内プール／実習・教室棟の新設／車いす対応のゴムチップのグラウンド／床暖房、教室天井遊具用釣り具、大型電子掲示板等／色覚の異常に対応した黒板等／水浴室　スヌーズレン室　床暖房／水利用指導室・全天候型トラック／全館バリアフリー化／地域支援室、検査室、自立活動室、プレイルーム、多目的室など／特別教室／敷地内に肢体不自由棟を増設。屋内プール棟の設置。／理科室がない／廊下･階段手すり／廊下の情報表示モニターの設置

【病弱】
エレベーター／オストメイト対応トイレ、教育相談室／ジャグジー／一部新設された部分と旧校舎のバリアフリー化がされ、肢体不自由の児童生徒に対応した施設になった。／施設のバリアフリー化／視覚障害教育支援センター／実習・教室棟の新設／床暖房、教室天井遊具用釣り具、大型電子掲示板等／色覚の異常に対応した黒板等／水治訓練室、自立活動室／組織整備／理科室がない

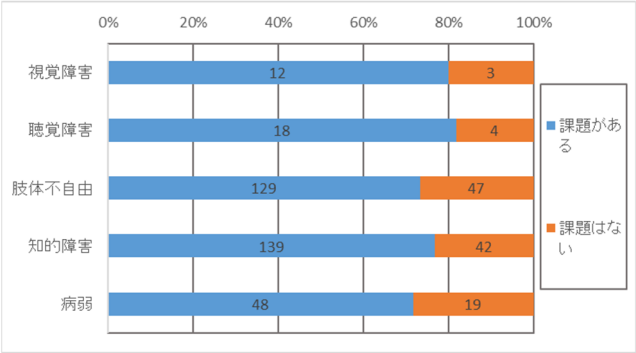
【124】併置校化による施設設備上の課題について、お答えください。≪単一選択≫

	課題がある	課題はない
合計	166	54
%	(75.5)	(24.5)

※上記表は各校が選択した項目数を集計しております。

視覚障害	12	3
%	(80)	(20)
聴覚障害	18	4
%	(81.8)	(18.2)
肢体不自由	129	47
%	(73.3)	(26.7)
知的障害	139	42
%	(76.8)	(23.2)
病弱	48	19
%	(71.6)	(28.4)
合計	346	115
%	(75.1)	(24.9)

※上記表は各校複数の障害種別を選択しており、障害種別毎に選択された項目を集計しております。



■課題内容

ＥＶ設置／エレベーター、スロープ／エレベーターの設置／スヌーズレン室の確保／トイレ等の構造上の問題がある。／バリアフリー化／バリアフリー化，屋根付駐車場確保／バリアフリー化、教室内に洗面場（手洗い場）がない教室がある。／バリアフリー化ができていない箇所がある。／バリアフリー化が不完全／バリアフリー施設・設備の充実／プレハブ校舎が継続のままである。／異障害種混在による共通動線上の安全確保／医療的ケア・病弱児への対応／音楽室などの特別教室の使用について制限が生じる。／各障害に対応する検査室等／学校規模が大きくなりすぎて、狭隘な環境での教育を余儀なくされている。増築しても教室不足は続いている。／学校施設の狭隘化／寄宿舎浴槽の肢体不自由対応／給食室が狭い、教室の不足／教育スペース不足／教室，学習室の不足／教室、特別教室の不足／教室数が不足している。／教室数が不足しており、知的障害児童生徒には狭い施設設備が多い。／教室数の確保／教室数不足　生徒の更衣室不足／教室不足（現在対応中）／教室不足，収納場所の不足／教室不足、トイレ不足／狭隘化／緊急時の対応等（スロープがない）／空きスペースがない。／空き教室利用のため、教室が分散している。／空調設備等の不足／経年劣化に伴う改修／限られた敷地と施設が手狭で十分な教育活動が展開できない／個別対応できる部屋の確保／校舎が２つあり，施設管理上課題がある。／校舎の老朽化、狭隘化／校舎や教室等の施設設備が限られている。／校舎設備の充実／高校の校舎を改修して開校したため肢体不自由生徒の移動や空調に課題あり。／高等学校との施設の共用が難しい／作業等を行う特別教室が生徒数に対して狭い。／使えるパソコンが少なく、授業に支障がある。肢体不自由部門と合同授業の時、教室が狭く机も使いにくい。／使用教室の調整／指導場所の確保／施設が狭い／施設の老朽化／施設設備のバリアフリー化／施設設備の老朽化／施設設備は充実しているが、実際に使用する場合の消耗品等の不足。／肢体の基礎的環境整備の不備／肢体不自由に特化した施設のため、自傷、他害のある児童生徒に対する安全配慮が難しい／肢体不自由の児童生徒が大多数であるのに、校舎内にスロープがない。／肢体不自由児が生活する空間であるという配慮が追いついていない。／肢体不自由児童生徒の教育ための施設設備が整っていない。／肢体不自由児用のトイレ・着替え場所及び床暖フローリングの設置、屋外スロープ・バス乗降場所への雨よけ屋根の設置／肢体不自由者の安全配慮／肢体不自由対応の施設設備が不十分／肢体不自由等、車椅子の生徒の教室を１階に確保したいが、／肢知児童生徒数の差による教室配置の調整／視覚・聴覚障害者への対応／児童・生徒玄関が２か

所あることによる防犯対策の構築／児童生徒数・学級数の増加に伴う特別教室等利用機会の減少／児童生徒数の増加による教室，トイレ，更衣室等の不足／児童生徒数の増加による教室数不足／児童生徒数の増加に伴う教室の不足／児童生徒数の大幅な増加に施設面で対応できていない。／児童生徒数増加に伴う教室等不足／児童生徒増による教室不足　狭隘化／自立活動に関する教材・教具さらなるの充実／実習施設がなく、地域の施設で作業の実習を実施／車椅子、パーテーション等の収納スペース／車椅子児童生徒が多いが普通教室がほとんど２階にある。非常変災時の緊急避難経路の安全が不十分／授業スペースの確保が課題／授業環境が整備不足／十分な空間が確保されていない／重複障害に対応した施設・バリアフリー化／小学校内の間借りのため、肢体重複学級の教室を設けることができない。／小規模な分校の知肢併置校であるため、専門設備や医療連携等不十分な面が多く、医療施設隣接の他校を選択される場合がほとんどである。／食堂が併置前の面積のため使用が制限される。／設備が不足している。／体育館・プールの共用／体力に差があるため、感染症対策／大規模　狭隘化／単独校時代の設備の老朽化／段差が散在している。／段差の解消、トイレ等の整備／段差解消、肢体不自由対応の教室、トイレ不足／知的が増加し増築を繰り返している。／知的教育校と病弱教育校の２校が合併し、高等部を新設して併置校として開校したため、小中学部と高等部の敷地が１．５㎞離れている。／知的障害生徒のための施設設備の設置がない／聴覚障害者に対する施設設備が不十分／特別教室、教室の不足／特別教室の確保／特別教室の共有による児童生徒の安全の確保／特別教室の使用の調整／特別教室の使用割／特別教室の調整に苦慮している。／特別教室の不足／特別教室等の不足と使用時間調整、運動場・体育館の狭小化／特別教室不足／特別支援教室の増設／敷地の狭小、施設の老朽化。／敷地内増設のために手狭になっている／普通教室の不足／分教室での教室不足／分校教職員の服務管理／併設施設との連絡等／訪問の生徒の学習機会の確保／本校と離れているため、教職員の服務管理が困難／木造校舎のメンテナンス／理科室等がない／老朽化／老朽化　古い設備や仕様／老朽化への対応／老朽化を補修する時期に来ている。
スロープ（エレベーターが一基のため、災害時に対応できない）／老朽化等"

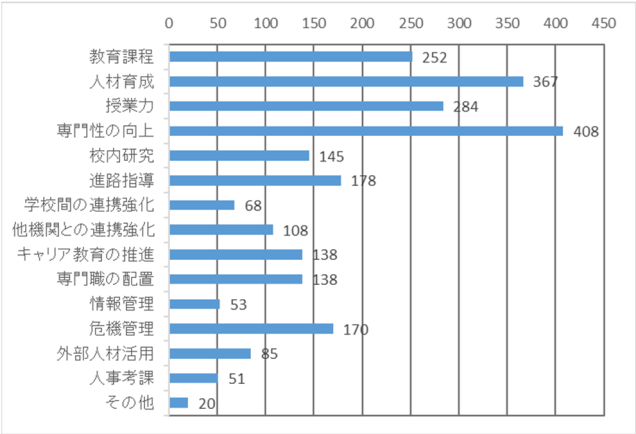
【125】併置校化による学校運営上の課題について、お答えください。≪複数選択可≫

	教育課程	人材育成	授業力	専門性の向上	校内研究	進路指導	学校間の連携強化	他機関との連携強化	キャリア教育の推進	専門職の配置	情報管理	危機管理	外部人材活用	人事考課	その他
合計	121	172	135	190	67	84	34	53	70	65	29	81	42	25	10
%	(54.8)	(77.8)	(61.1)	(86)	(30.3)	(38)	(15.4)	(24)	(31.7)	(29.4)	(13.1)	(36.7)	(19)	(11.3)	(4.5)

※上記表は各校が選択した項目数を集計しております。

視覚障害	7	13	7	14	5	5	3	4	2	4	1	6	3	1	1
%	(43.8)	(81.3)	(43.8)	(87.5)	(31.3)	(31.3)	(18.8)	(25)	(12.5)	(25)	(6.3)	(37.5)	(18.8)	(6.3)	(6.3)
聴覚障害	9	19	12	19	10	7	5	6	3	4	3	6	3	5	1
%	(39.1)	(82.6)	(52.2)	(82.6)	(43.5)	(30.4)	(21.7)	(26.1)	(13)	(17.4)	(13)	(26.1)	(13)	(21.7)	(4.3)
肢体不自由	102	139	113	161	52	69	19	42	56	61	19	68	37	18	6
%	(58.3)	(79.4)	(64.6)	(92)	(29.7)	(39.4)	(10.9)	(24)	(32)	(34.9)	(10.9)	(38.9)	(21.1)	(10.3)	(3.4)
知的障害	104	142	116	156	57	71	27	43	58	53	27	71	35	21	7
%	(57.1)	(78)	(63.7)	(85.7)	(31.3)	(39)	(14.8)	(23.6)	(31.9)	(29.1)	(14.8)	(39)	(19.2)	(11.5)	(3.8)
病弱	30	54	36	58	21	26	14	13	19	16	3	19	7	6	5
%	(44.1)	(79.4)	(52.9)	(85.3)	(30.9)	(38.2)	(20.6)	(19.1)	(27.9)	(23.5)	(4.4)	(27.9)	(10.3)	(8.8)	(7.4)
合計	252	367	284	408	145	178	68	108	138	138	53	170	85	51	20
%	(10.2)	(14.9)	(11.5)	(16.6)	(5.9)	(7.2)	(2.8)	(4.4)	(5.6)	(5.6)	(2.2)	(6.9)	(3.4)	(2.1)	(0.8)

※上記表は各校複数の障害種別を選択しており、障害種別毎に選択された項目を集計しております。



■その他内容

本校と分教室との連携／同じ学校としての理念の共有、学校ブランドの立ち上げ／まずは、年齢構成の問題から人材育成で引き継げる仕組みが機能しづらい。／他の障害の重複者が入学／分校教職員の服務管理／医療的ケア児童生徒の増加による安全面の確保／肢知児童生徒数の差による教職員数の差／分校は併置校化にともなう変化なし／教職員が２つの部門の障害特性を理解し、指導上の配慮事項を知っておく必要がある／・海を隔てての分教室なので、本校との協力体制が作りにくい。／保護者を含めた相互理解／小規模校での併置のため、課程を問わず、「望ましい集団」での学び合いをどのように保障していくのかが課題である。／悉皆の研修の実施

さいごに

併置校としての運営上、教育課程、人材育成、授業力、専門性の向上が多く回答されている。ただしこれは併置校に限ったことではなく、単独校でも常に問題が顕在化している部分であることが調査全体から見て取れる結果となった。